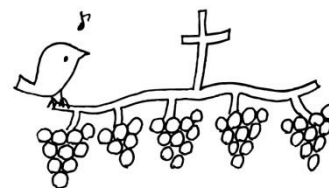


「5月誕生&受洗記念会」(2018.5.20)

あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。(ヨハネ 13:34-35)

4月22日、定期総会が開かれ、「主にあって手をつなごう！」を年度目標として掲げることになった。上掲のみ言葉にあるように、互いに愛し合うことは主に従う者の掟である。教会の中にあって、この掟が生きている時、まさにそこに「私た



ちがキリストの弟子である」ことが証されると主は教えてくださった。私たちはみ言葉と祝福を受けてそれぞれの場に派遣される。外に出かけていくのである。伝道の困難さに時に私たちは臆病になってしまうことがある。でも、この困難さを突破する道がある。それが、上掲のみ言葉である。私たちが互いに愛し合い、主にあって一つとされている信仰に固く立つならば、伝道を妨げる壁は突き破られるのである。

そういうことで、今年の一つの試みとして、第二聖日の礼拝後に「誕生&受洗記念会」を開くことにした。早速、5月13日、今年度最初の記念会を開いた。5月に誕生日あるいは受洗日を迎えた方はお二人おられ、週報やはがきで周知を図った。それぞれ事情があり、お二人とも参加できない場合も覚悟していたが、幸いE姉が参加して下さった。記念会は牧師の祈りで始まり、目の前のお菓子や差し入れを戴きながら、E姉からご自身のこれまでの歩みの一端を話していただいた。その話を受けて、参加者が感想や質問を交わした。私にとっては初めて聞くような事ばかりで、改めてE姉を通して互いの交わりを深める事が出来た。最後にN長老がE姉と教会の為に祈りを捧げ、感謝の内に記念会を終えることになった。初めての記念会で行き届かないところもあったかと思う。今後さらに工夫し知恵を出し合ってより深い交わりの時としたい。

このように、今年には特に覚えたい。横手教会に連なる一人ひとりには主の体なる肢体であり、主にあって一つだということ。この信仰に立って、互いに手を差し伸べ、主にあって手をつなぐ、そのような信仰共同体を心掛けたい。